

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691900017		
法人名	医療法人守章会		
事業所名	グループホームリリーハウス		
所在地	徳島県三好郡東みよし町中庄538-1		
自己評価作成日	令和元年7月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和元年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風光明媚な立地であり、吉野川に近く、自然豊かである。ユニバーサルデザイン適合証を受け、安全で安心して利用できる施設である。法人の運営する医療機関と連携を図り、24時間体制での対応ができています。毎日、歩行訓練や体操を行い、利用者様が自立支援できるように努めている。施設の中庭では色々な季節の野菜や花を作り、利用者様が楽しめるようにしている。スタッフ一人ひとりが高い志を持ち、個々の生活スタイルを尊重し、入居者中心の介護をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、地域の自治会に参加したり、管理者自ら地域のスポーツ団体に所属したりして、地域住民と交流している。また、利用者と職員で散歩や花見に出かけたり、認知症カフェや敬老会、運動会、保育所のクリスマス会などに参加したりして、地域との交流を深めている。日頃から、歩行訓練や体操を行い、利用者の便秘の解消や安眠の促進、体力作りに取り組んでいる。法人が運営する医療機関と連携を図り、急な体調の変化にも対応できるため、利用者と家族の安心に繋がっている。職員は、利用者一人ひとりの意向を把握し、買い物ドライブ、外食、喫茶店など、多様な外出支援に取り組んでいる。職員は、日頃の支援の中で気付いたことを共有して、介護計画の見直しや業務改善を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ホール、事務所、玄関に掲示している。職員間で共有し、毎朝の朝礼時職員全員で唱和を行っている。1日の目標を立て実践している。	事業所では、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を掲げている。理念は、共用空間や事務所、玄関など誰もが確認できる場所に掲示している。毎朝の朝礼時に全職員で唱和して、共有化を図り、介護の実践に取り組んでいる。また、ユニットごとに一日の目標を立て、終礼時に話しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェに参加して地域住民と交流を図ったり、利用者が保育所を訪問し、子供達とも交流を深めている。お盆には地域の阿波踊り連が来訪してくれている。	事業所では、日頃から利用者や職員で散歩をしたり、保育所を訪問したりして、地域住民と交流を図っている。地域の祭りや敬老会などの行事に参加したり、阿波踊りの訪問を受け入れたりして、地域と双方向の交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の勉強会を開催している。施設見学に来られた方に認知症ケアについて説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の代表、公的機関の職員等の参加を得て、2カ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、事業所の取り組み等を報告し意見、情報交換を行いサービスの質の向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、役場や地域包括支援センター、地域の代表者、消防署、警察などの出席を得ている。会議では事業所の現況報告のほか、出席者との意見交換を行い、出された意見を運営面に反映している。また、会議の後に勉強会を開き、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員は窓口に出向いて事業所の運営や困りごとについて相談している。アドバイスを受け、協力関係、連携を図っている。	毎月、職員は、担当窓口や広域連合等を訪問している。訪問時は、運営に関する相談や情報交換を行うことで、協力関係を築いている。また、町役場や社会福祉協議会の研修会に参加し、地域の情報や状況の把握に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を3カ月に1回行い、拘束にあたる行動や言動について話し合い、安全な暮らしが支援できるように務めている。	3か月に1回、事業所では、身体拘束に関する研修を開催している。研修会では、身体拘束にあたる行動や弊害への理解、廃止に向けた取り組みについて学び、職員間で共有化を図っている。職員は、日頃から相互に確認を行い、利用者が安全に安心して暮らせるよう支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会を実施し、防止に努めている。職員に周知徹底し、ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で勉強会を行ったり、理解を深め利用者様が必要時には活用できる支援も実施している。当事業所にも数名、制度を利用している利用者がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結及び改定時には文書を作成し、説明を十分に行い同意を得ている。家族からの質問があれば詳しく説明を行い、納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪の際には積極的に話す機会を設けて意見を頂けるように努めている。	2か月に1回、家族に個人記録と写真を送付し、利用者の生活状況をお知らせしている。家族の来訪時には、意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。出された意見や要望は、職員間で共有化を図り、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や朝の申し送り時に意見、要望などを聴く機会を持っている。ケアや業務に対する提案は運営に反映させている。	管理者は、職員会議や朝の申し送り時に、運営に関する意見や提案、要望を聞きとっている。また年1回、事業所では、代表者と職員との個別面談の機会を設けている。出された意見や要望は、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシートを作成し、職員の目標管理や自己評価を把握し、個々の評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修会に参加している。参加者には研修報告書を義務付け、朝礼時に報告を行い、全員が周知できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加して意見交換を行い、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受けると、入居前の面談時から経緯を聞かせて頂き、安心した暮らしが提供できるよう環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所が提供できるサービスについて家族様に説明したり、家族の状況や意向をお聞きし、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人様や家族様が必要とされている支援を見極め、意向をしっかりと聞き、できる限り要望に応えられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にできることは共に行い、お互いに支え合える関係作りを築いている。利用者様に教えて頂くことで職員の成長にも繋がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には、生活状況の報告を行い情報交換し、共に支えて頂ける関係を築いている。2カ月に1回、利用者様の生活の様子が分かる写真入りの新聞を送り、近況をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人が来訪しやすい環境づくりを大切にしている。来訪された場合は、居室に案内し共に過ごして頂いている。	職員は、利用者の馴染みの店や理・美容院、墓参り、地域の敬老会への参加などを支援している。職員は、利用者の友人や知人が来訪した際、温かく迎え入れるなど、利用者が大切にしてきた人や場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション(体操、作品作り等)を行い、馴染みの関係を築けるように支援している。入居者様一人ひとりの性格を把握し、トラブルなく過ごせるように席に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などをされた場合には、お見舞いに行き様子をお伺いしている。退居先が法人の運営する病院の場合は、連携を図り経過を把握するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様についてのミーティングを行い、意向に沿ったケアができるよう努めている。	日頃から、職員は、利用者一人ひとりに寄りそい、希望や意向を把握するよう努めている。把握した内容は個別に記録し、職員間で共有化を図り、サービスの質の向上に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人ひとりのこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、家族構成、服薬状況、既往歴、入居に至るまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の生活スタイルを把握し、一人ひとりに合った支援を実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でモニタリングに取り組み、よりよい暮らしを目指して計画書に反映している。	事業所では、モニタリングに取り組む際、介護記録や関係者の意見等に基づいて話しあっている。利用者一人ひとりの現状に応じた介護計画書の作成に努めている。随時、利用者の心身状態の変化に応じ、計画書を見直している。なお、家族等の協力も得て、サービス担当者会議を開催している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を個別記録に記入している。職員間で情報を共有し、支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況に応じて、必要な支援を提供し、本人様や家族様が満足して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加している。10月には中学生が福祉体験に来て頂ける予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様の希望するかかりつけ医の受診を支援している。	事業所では、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門他科へは家族の協力を得て受診しているが、家族の同行が困難な時は、職員が同行支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来られた時には、日々の状態を報告し、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは、常に情報交換を行い、入院時には支援している。退院後、グループホームで過ごせるよう医療連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、利用者や家族様に終末期のあり方について説明し同意を得ている。	事業所では、契約時の段階で、利用者や家族に重度化した場合や終末期の方針を説明している。利用者の心身の状況の変化に応じて、本人や家族の意向を確認している。関係者間で話しあい、対応方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、事務所、各ユニットに提示し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、年2回保安協会、消防署の協力を得て、火災や地震を含めた防災訓練を利用者様参加のもと実施している。	年2回、事業所では、保安協会や消防署等の協力を得て、避難訓練を実施している。日中と夜間の地震や水害、火災を想定して、避難経路や消火器の使い方の確認を、利用者と一緒にしている。備蓄品を揃えたり、近隣の協力体制を構築したりして、災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーやプライドを傷つけないようにさりげないケアを実践している。	職員は、利用者一人ひとりに寄りそい、さりげない支援や自己決定しやすい言葉かけを行うよう努めている。毎朝の朝礼時に気づいたことを話しあったり、日頃の支援の中で、誇りやプライバシーへの配慮ができていないか確認しあったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者の思いや希望が表現できるような関係を築き、本人の思いを引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースや希望に合わせ、本人様が好きなことができる柔軟な対応、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回外部より、訪問美容が来られ、整髪、顔剃りなどを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒にテーブルを囲み食事をしている。利用者様の個々にあった食事形態(刻み食、ミキサー食、とろみ)を提供している。	食事は、法人で作られた物を、利用者一人ひとりにあわせた食事形態で提供している。汁物やおやつを事業所で作ったり、利用者と職員と一緒に収穫した野菜を献立に加えたりして、食事が楽しくなるよう工夫している。利用者は自発的に後片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量は細かくチェックし介護記録に記載して把握している。食事量の少ない時は、栄養補助食品等を利用したりして摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて口腔ケアの介助を行っている。義歯は毎日洗浄液につけて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄サインやパターンを把握しトイレ誘導を行っている。パットも利用者様の状況に合わせて使用している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。夜間はパットやポータブルトイレを使用して、利用者が負担を感じることのないよう排泄を支援している。事業所では、利用者全員にヨーグルトを提供したり、散歩やリハビリ体操を行ったりして、便秘予防と自然排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便を促すように散歩やリハビリ体操の他に毎朝ヨーグルトを食べて頂き、便秘予防を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴日程を決めているが、体調や気分を伺い、希望に応じて入浴できるようにしている。その他、便失禁があった利用者様は入浴、シャワー浴を行い清潔保持に努めている。	事業所では、週2回は入浴日を決めているが、利用者の希望に応じて、毎日でも入浴ができるよう支援している。入浴を拒むときには、タイミングを変えて声かけをしたり、石鹸を変えたりして、利用者が負担を感じることのないよう支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活量を増やし、気持ちよい入眠を促している。生活リズムや体調に応じて居室で休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は各自のファイルに綴じ、職員がいつでも確認できるようにしている。主治医に服薬状態を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴や理解に努め、生きがいや楽しみのある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事では、定期的に季節を感じられる場所(花見・チューリップ見学・菖蒲見学等)に外出している。車椅子での外出も支援している。	事業所では、毎日の散歩の他、買い物や喫茶店へ出かける等、利用者一人ひとりの希望に応じた支援をしている。花見やチューリップ園、菖蒲園の見学など、季節を感じられる外出行事も行っている。車いすの利用者も外出できるよう配慮している。また、家族の協力を得て、地域の祭りや行事、外食、敬老会などにも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、預り金としてお預かりしている。買い物支援の時には、好きな物を購入しお支払いもして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれ、掛けている方や希望があれば、電話を掛ける支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや居室に目印に貼り紙をして分かりやすい環境にしている。壁画や飾りで季節を感じて頂ける空間作りをしている。	共用空間には、利用者と職員で作成した様々な作品を飾っている。掲示物からは、季節を感じることができる。廊下にはソファを設置し、利用者が談笑したり、休憩したりできるよう配慮している。台所からは食事の用意や片付けの音が聞こえるなど、家庭的な雰囲気の中で過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置き、談話して過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や家族からのプレゼントを飾っている。来訪の方と居室やソファでゆっくりと過ごされ、気持ちの安定を図っている。	居室には、利用者の使い慣れた家具や写真を持ち込んでもらっている。利用者が製作した作品も飾っている。また、利用者一人ひとりが家族などの来訪者とともに、居室でゆっくりと過ごすことができるよう、環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや脱衣所、トイレは身体に合わせて手すりを設置している。自立した生活が維持できるよう支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ホール、事務所、玄関に掲示している。職員間で共有し、毎朝の朝礼時職員全員で唱和行っている。1日の目標を立て実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェに参加して地域住民と交流を図ったり、利用者が保育所を訪問し、子供達とも交流を深めている。お盆には地域の阿波踊り連が来訪してくれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の勉強会を開催している。施設見学に来られた方に認知症ケアについて説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の代表、公的機関の職員等の参加を得て、2カ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、事業所の取り組み等を報告し意見、情報交換を行いサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員は窓口に出向いて事業所の運営や困りごとについて相談している。アドバイスを受け、協力関係、連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を3カ月に1回行い、拘束にあたる行動や言動について話し合い、安全な暮らしが支援できるように務めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会を実施し、防止に努めている。職員に周知徹底し、ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で勉強会を行ったり、理解を深め利用者様が必要時には活用できる支援も実施している。当事業所にも数名、制度を利用している利用者がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結及び改定時には文書を作成し、説明を十分に行い同意を得ている。家族からの質問があれば詳しく説明を行い、納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪の際には積極的に話す機会を設けて意見を頂けるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や朝の申し送り時に意見、要望などを聴く機会を持っている。ケアや業務に対する提案は運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシートを作成し、職員の目標管理や自己評価を把握し、個々の評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修会に参加している。参加者には研修報告書を義務付け、朝礼時に報告を行い、全員が周知できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加して意見交換を行い、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受けると、入居前の面談時から経緯を聞かせて頂き、安心した暮らしが提供できるような環境作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所が提供できるサービスについて家族様に説明したり、家族の状況や意向をお聞きし、信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人様や家族様が必要とされている支援を見極め、意向をしっかり聞き、できる限り要望に応えられるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にできることは共に行い、お互いに支え合える関係作りを築いている。利用者様に教えて頂くことで職員の成長にも繋がっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には、生活状況の報告を行い情報交換し、共に支えて頂ける関係を築いている。2カ月に1回、利用者様の生活の様子が分かる写真入りの新聞を送り、近況をお知らせしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人が来訪しやすい環境づくりを大切にしている。来訪された場合は、居室に案内し共に過ごして頂いている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごすことが多いが、レクリエーションや体操をして、皆様に楽しく過ごして頂ける時間作りを心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などをされた場合には、お見舞いに行き様子をお伺いしている。退居先が法人の運営する病院の場合は、連携を図り経過を把握するようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様に関してのミーティングを行い、意向に沿ったケアができるよう努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人ひとりのこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、家族構成、服薬状況、既往歴、入居に至るまでの経過等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の生活スタイルを把握し、一人ひとりに合った支援を実践している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でモニタリングに取り組み、よりよい暮らしを目指して計画書に反映している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を個別記録に記入している。職員間で情報を共有し、支援を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況に応じて、必要な支援を提供し、本人様や家族様が満足して頂けるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加している。10月には中学生が福祉体験に来て頂ける予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続して受診している方もおり、必要に応じて希望の病院受診を行える体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時には、利用者様の変化や日頃の状態を報告し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、洗濯物を預かりに病院へ行った時に、ご本人の状態を看護師等に聞き、ご本人やご家族の意向を伺いながら支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、利用者や家族様に終末期のあり方について説明し同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、事務所、各ユニットに提示し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、年2回保安協会、消防署の協力を得て、火災や地震を含めた防災訓練を利用者様参加のもと実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の場面では、自尊心を傷つけないような声掛けを行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や願いを会話の中から引き出し、受け止め支援している。意思表示が思うようにできない場合はしぐさや表情を観察し把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれが望まれる過ごし方や希望に沿うよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴時の衣類選びは、ご自分でできる利用者様は行ってもらっている。2カ月に1回訪問美容に来てもらい、散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒にテーブルを囲み食事をしている。利用者様の個々にあった食事形態(刻み食、ミキサー食、とろみ)を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量は細かくチェックし介護記録に記載して把握している。食事量の少ない時は、栄養補助食品等を利用して摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて口腔ケアの介助を行っている。義歯は毎日洗浄液につけて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はできる限りトイレで行えるように支援している。排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。					
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使わないで排便できるように十分な水分補給や体操等で身体を動かしてもらえるように努めている。					
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴時間帯は決めているが、個々の状況に応じて行っている。談話を楽しみながらゆっくり入浴できるように支援している。					
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、昼夜逆転しないような工夫に努めている。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は各自のファイルに綴じ、職員がいつでも確認できるようにしている。主治医に服薬状態を報告している。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや洗濯物干し、畳み等の作業を利用者様にあったペースで共にして頂いている。					
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、行事等で外出支援している。また、家族の付き添いで他病院受診時に帰宅や買い物等をされ気分転換を図っている。					

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、預り金としてお預かりしている。買い物支援の時には、好きな物を購入しお支払いもして頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれ、掛けている方や希望があれば、電話を掛ける支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールには、行事の写真を貼ったり季節に合った飾り付けをして、季節を感じられるように工夫している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者の居室を行き来できる支援をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人の写真や、利用者様が書かれた塗り絵等を貼って、居心地よく過ごせる環境作りに努めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが認識しにくい方に対しては、貼り紙をする等をして分かりやすい工夫をしている。			